with

東北大学病院
地域医療連携センター通信
［With／ウィズ］

vol.48
2019年8月9日発行

新病院長挨拶
People

冨永 悌二（とみなが ていじ）

2019年4月に病院長に就任しました冨永悌二です。日頃より、当院にご支援とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。私は2015年より副病院長を務め、診療面や医療安全に目を配りながら病院運営に携わって参りました。また自身の専門である脳神経外科では、教授として東北全域の脳神経外科領域の診療に携わり、大学病院にとって地域連携がいかに重要か身をもって経験してきました。今後も東北大学病院が長年にわたって築いてきた地域の医療機関との連携をさらに強化して参りたいと考えております。

本院は昨年5月に、先進医療棟を開設しました。最先端の機能を備えた手術室を中心に、ICU、高度救命救急センターなど、高度先進医療に特化した医療を安全に提供する場として、現在順調に稼働しています。また、今年4月には、眼科処置室を整備したデイサージャリーセンターを開設しました。低侵襲術式や最小限の麻酔により、これまで入院が必要だった白内障手術を日帰り外来手術で実施しています。さらには、がんゲノム医療の推進や、遠隔医療として「てんかんオンラインセカンドオピニオン外来」を開始するなど、多様化する社会のニーズに応える新規医療に積極的に取り組んでいるところです。

当院はこれらの新たな展開を通じ、地域医療機関の皆さまと機能を分担しながら、互いに連携して効果的・効率的な地域医療を推進し、特定機能病院としての役割を十分に発揮したいと考えております。地域に開かれ、地域から信頼される病院であり続けられるよう、一層の努力を続けて参る所存です。皆さまのご理解、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

東北大学病院

認定看護師紹介 / 小児看護専門看護師
People

三谷 綾子（みたに あやこ）

小児看護専門看護師は「子どもたちが健やかに成長・発達していけるように療養生活を支援し、他の医療スタッフと連携して水準の高い看護を提供する」ことを役割として2002年5月に誕生し、2018年12月現在全国で231名が活動しています。私は2014年12月に認定を受け、小児医療センターでの勤務から1年間の産休育休後婦人科・乳腺外科病棟を経て現在は外来Ⅱに所属し勤務しています。活動のひとつとして小児科外来に開設されている小児看護外来で子どもと家族への心理・社会的支援を行っています。小児科に限らず外来各診療科においても「病気のことが原因で学校に行けていない患者から相談を受けたがどのように対応したら良いか?」「別病院での処置がきっかけで当院の通院も不安が強くなってしまった患者がいる」など子どもを取り巻く様々な問題に対応するスタッフの相談を受け、子どもと家族にとってより良い対応を一緒に考えていく縁の下の力持ち的役割を担っています。

また、子どもとその家族がより良い生活が営めるように、日常の医療的ケアや付随する生活的ケアが成長発達に伴い変更の必要がないかなど、日々主治医をはじめとした支援者の方々と共に具体的に考え支援につなげています。医療技術の進歩により、より複雑な複数の医療的ケアを必要とする患者さんが増えています。遠方から来院される患者さんも多く、地域と連携し同じケアを提供できるように橋渡しをしていくことも大切な役割のひとつです。

成育支援について相談を受けることもあります。疾病療養を続けながら通うことを受け入れる幼稚園や保育園、小・中学校、進学先の高等学校など医療機関以外との連携も小児専門看護師として大切な仕事です。どんな病気であっても、身体や知能や精神にどのような障害があっても「普通の子ども」である一人ひとりを医療と教育と福祉が一丸となって支えていく時に私自身が支援の柱のひとつとなれるようこれからも研鑽を積んでいきたいと思っています。

お知らせ
Information

●フリーダイヤルのお知らせ

2019年3月1日から予約受付方法を改善しました!

・新患予約のお申込みは、予約専用フリーダイヤルをご利用ください。

・紹介元や患者さんをお待たせすることなく予約日時を確定できます。

〈予約専用フリーダイヤル〉
TEL：0120-201273

●新患に関する変更のご案内

腎・高血圧・内分泌科は2019年3月より新患日が変更になりました。

新患日：月・水・金
（祝祭日・年末年始を除く）

連絡先：022-717-7778
（腎・高血圧・内分泌科外来）

編集後記

本号は令和に入って初の号となります。冷夏により例年より涼しいと感じる日が続く中で、課内ではフリーダイヤルの運用が開始されたことにより、電話の鳴りやまない毎日。冷夏ならぬ熱い夏が訪れております。
今後とも、皆様のご協力をいただきながら、多くの役立つ情報を丁寧に発信することを心がける所存です。
（地域医療連携係 宇角）

編集／発行

東北大学病院 地域医療連携センター
TEL：022-717-7131　FAX：022-717-7132
Eメール：ijik002-thk@umin.ac.jp
ご意見・ご要望は地域医療連携センターまでお問合せください。

新診療科長挨拶 / 泌尿器科 科長

People

伊藤 明宏（いとう あきひろ）

2018年4月1日付けで泌尿器科長を拝命した伊藤明宏です。1990年に東北大学を卒業後、東北大学医学部附属病院で泌尿器科医としての研修をスタートし、その後は、東北地方各県での臨床に従事して参りました。

泌尿器科疾患は、排尿機能、尿路結石症、尿路感染症、男性機能、不妊症、先天性泌尿器疾患、女性泌尿器疾患、尿路性器腫瘍、内分泌疾患、腎不全、泌尿器臓器外傷など多岐にわたります。良性疾患ではQOLに関わるものが多く、男女を問わず幼い患者から高齢者に至るまでの泌尿器領域に関する悩みを解決することが、泌尿器科医の大切な使命と考えています。

また、本院のがん登録では、前立腺癌患者数は男性癌の第1位となっており、県内外から多数の患者が訪れています。早期前立腺癌を対象としたロボット支援前立腺全摘術は2012年の保険承認以来、多数の症例を手がけて参りました。その後、腎部分切除術、膀胱全摘術など、順次ロボット支援手術の保険適応が拡大され、現在ではロボット支援手術が泌尿器科手術の中心となっています。これらのロボット支援手術においても、前立腺全摘後の尿失禁と男性機能障害、腎部切後の腎機能温存、膀胱全摘後の尿路変向など、手術そのものがQOLに直結していますので、癌の制圧だけでなく術後のQOL維持が、泌尿器科癌治療の重要な目的の一つとなっています。更に、進行癌においては、隣接臓器の合併切除、下大静脈腫瘍塞栓を伴う腎癌手術、精巣腫瘍での広範囲なリンパ節郭清術など、関連各科と共同で積極的な外科的治療を行って参りました。

院内の様々なスタッフとのコラボレーションのもと、東北大学病院ならではの泌尿器科診療を提供して参りたいと考えておりますので、皆さま方のご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

院内共同利用施設紹介

東北大学病院デイサージャリーセンター センター長 國方 彦志（くにかた ひろし）

Facility

デイサージャリーセンター開設

近年、患者さんのおかれる状況は、ますます多様となってきました。その生活になるべく影響を及ぼさずに手術や治療を行い成功させるには、日帰り手術（デイサージャリー）が不可欠です。デイサージャリーは、仕事が忙しく休暇が取れない方、家庭の事情で家を留守にすることのできない方など、入院を望まない多くの患者さんから切望されてきました。

東北大学病院では、これまで行ってきたクオリティの高い入院手術を、日帰り外来手術で実現すべく、2019年3月25日にデイサージャリーセンターを開所いたしました。本センターでは、比較的身体への負担の少ない手術を入院せずに通院で行います。拘束時間が短く、生活リズムを大きく崩さないため、ほぼ日常生活の延長線上で治療を受けられることになります。　手術の日には、身の回りの生活必要品の携行がほとんど不要のため、身軽に来院できます。低侵襲の術式や最小限の麻酔により、身体への負担が少ない手術を行うため、術後の社会復帰も早まります。本センターの手術設備は、当院の入院手術設備と変わらない高いレベルであり、安全性に配慮し、経験のある医師が万全を尽くして執刀いたします。多様化する患者さんのニーズに応え、安全に、そして安心して納得のいく治療を受けて頂けるよう、デイサージャリーセンターとしての役割を果たしたいと考えております。

現在、本センターでは、眼科の白内障手術を行っておりますが、患者さんのニーズに応じて、今後対応できる疾患・手術を広げていく予定です。日帰り手術をお考えの患者さんは、東北大学病院外来受診時に、担当科の医師にご相談ください。東北大学病院の外来5階デイサージャリーセンターにおいて、経験豊富な医師と看護師が皆さまをお待ちしています。

イベント情報 / 総括副病院長　髙橋 哲（たかはし てつ）

Event

第３回東北大学病院歯科部門地域連携懇談会を開催しました

2018年11月26日に東北大学病院歯科部門と東北大学大学院歯学研究科の主催、宮城県歯科医師会と仙台歯科医師会の共催で、第3回東北大学病院歯科部門地域連携懇談会・情報交換会を開催しました。本会は、地域歯科医療を担う歯科医院の先生方と東北大学病院の歯科医師が、顔の見える密接な病診連携体制を更に推進することを目的に、毎年開催されています。参加者が増加していることから、今回から星陵会館2階にある星陵オーディトリアム講堂を用いての開催となりました。

本会では、佐々木啓一 歯学研究科長と、宮城県歯科医師会の細谷仁憲会長からご挨拶をいただき、議事へと移りました。私が議長役を務め、地域歯科医院と東北大学病院歯科部門の連携方法の具体案や今後の連携推進の方策について討論を進めた後に、矯正歯科の溝口到 教授、歯科麻酔疼痛管理科の水田健太郎 教授から、東北大学病院の最先端歯科医療についてミニレクチャーがありました。夕刻7時からの開催であったにも関わらず、100名を越える地域と大学の歯科医師が参加し、大盛会となりました。

生協食堂で引き続き行われた情報交換会では仙台歯科医師会の駒形守俊 会長ならびに宮城県歯科医師会の泉谷信博 副会長からお言葉をいただき、歯科部門の地域連携に大きく貢献していただいた先生に感謝状を進呈しました。参加いただいた先生方は、地域歯科医療や大学病院歯科部門の情報を交換すると共に、杯を交わしながら多いに親睦を深め、大変有意義な時間を過ごすことができました。

本年度の第４回東北大学病院歯科部門地域連携懇談会は、11月8日（金）に開催を予定しております。これまでご参加いただいた先生方に厚く御礼を申し上げますと共に、今後も地域歯科医師の先生方と顔の見える密接な連携を推進していきますので、宜しくお願い申し上げます。

イベント情報

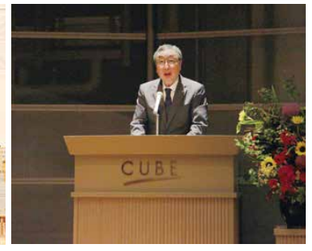
Event

第２回東北大学病院つながる健康講座 in しろいし「肺の病気を知ろう」を開催しました

6月16日（日）、白石市文化体育活動センター ホワイトキューブコンサートホールにおいて、つながる健康講座 in しろいしを開催しました。

今回は、「肺の病気を知ろう」と題し、当院の呼吸器内科 一ノ瀬正和 教授、杉浦久敏 准教授、山田充啓 助教、宮内栄作 助教が慢性閉塞性肺疾患（COPD）、ぜんそく、肺炎、肺がんなど代表的な肺の病気の症状や治療について講演しました。また、みやぎ県南中核病院 呼吸器内科検査診療部長 岡田信司氏を交えて「肺を健康に保つ秘訣」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

閉会後も参加者から質問が寄せられ、肺の病気に対する関心の高さがうかがわれました。

肺は体内に酸素を取り込むための臓器であり、大切なのは、初期症状であるせき・たん・息切れなどのサインを見逃さないこと、異常があれば早期に医療機関を受診するということをご理解いただけたのではないでしょうか。悪天候の中、多くの皆さまにご来場いただき深く感謝申し上げます。

当院は、今後も最先端の医療を分かりやすく紹介する機会を設け、地域社会の皆さまへの情報発信に努めて参ります。